

## 長岡税務署長賞

# 税と日本の未来

新潟県立長岡大手高等学校

三年 藤井 陽大

先日僕は十八歳の誕生日を迎えて、ワクワクしながら初めての選挙に行ってきた。元々少し政治に興味を持っていた僕は、やっとな自分の応援している政党に票を入れられる日が来てうれしかったのだ。しかし大人として認められ、選挙に参加するからにはしっかりと責任をもって政治問題や税金の使い道を知っておかなければならないと思い、学校の教科書やインターネットで調べてみた。

そこで特に目にしたのが税金の支出の割合が一番高い社会保障だった。この社会保障とは、年金や介護、医療、福祉などに使われているものと書かれていた。このデータを見たとき、以前僕はこの制度にとっても助けられていたことを思い出した。

当時、中学生の僕は野球部に所属していた。ある試合の時、苦手だったスライディングでミスをしてしまい膝をケガしてしまった。前十字靭帯という膝の靭帯が切れていて、医者からは手術をして半年以上のリハビリが必要と言われた。とてもショックだったのと同時に、手術なんてしたら膨大なお金がかかってしまい親に迷惑をかけてしまうのではないかと心配になった。しかし後か

ら、保険が適用されてかなりの部分を負担してもらえると聞いて安心した。僕は税金の大切さ身にしみて感じた。こんな経験があったので、社会保障は国民を助ける素晴らしい制度だと思っっている。

しかしその一方で、平均寿命の上昇に伴い介護や年金、医療などの負担額が高額になっていて、将来年金をもらえなくなってしまうかもしれないと書かれていた。さらに、一人の高齢者を支える若者の人数がどんどん減っていき、介護に追われ仕事を満足にできない若者が増えてしまうという予想もされていた。こんな状況になったらどのように生きていけばいいのか、すごく不安である。この社会保障は素晴らしい制度であるが、同時に大きな危険性もはらんでいると知った。

税金の使い方は、簡単に答えを出せるものではない難しい問題だ。選挙で若者の投票率が低いとよく言われているが、僕ら若者一人一人が未来を担っていくことを自覚し考えていかないと、多くの問題は拡大していつてしまうだろう。問題にしっかりと向き合い、「考えられず、自己主張のできないゆとり世代」なんて言われないように動ける力をつけていきたいと思う。